

【中国木材(株)鹿島工場の見学会開催】

6月16日、茨城森林管理署は、関東森林管理局森林技術・支援センターにも参加いただき、職員30名による「中国木材(株)鹿島工場」(集材・集成材工場：茨城県神栖市)の見学会を開催しました。



〔集成材見学の様子〕

この見学会は、当署が人工林率が高く、立木販売・製品生産などの木材供給に係る業務が多いことから、川上の森林施業や国有林管理業務に携わる私ども職員が、川下需用者側の木材の生産・流通の現状を理解し、林業の成長産業化に寄与するよう、署の業務を推進することを目的に開催したものです。

中国木材(株)鹿島工場は、会長の方針である「木材加工業は物流業である」を意識した取組を進めている業界 No 1 の実力を有する工場です。

この鹿島工場では、「製材及び製造販売」「乾燥材の製造販売」「集成材の製造販売」「プレカット加工」「木質バイオマス発電・熱供給」を行っています。特に集成材では、米マツに加えて、当署生産材を含む国産スギを使用しており、米マツは10万m³/月間を製材しているとのこと。

米マツは、アメリカのウェアーハウザー社が生産する60年生の素材のうち約60%を中国木材(株)が受け入れているそうです。このウェアーハウザー社は日本の四国地方よりも広い森林面積を所有していて、造林・素材生産のほか育苗にも力を入れているそうです。

集成材には、茨城県常陸大宮市にある宮の郷工業団地の木材事業協同組合(中国木材)からスギ材を受け入れており、特に八溝スギは優れているそうです。

(宮の郷木材事業協同組合(中国木材)は当署のシステム販売の協定締結者です。)

木質バイオマス発電については、21,000Kwの発電規模で、乾燥施設100m³規模の釜が160基あり、蒸気を利

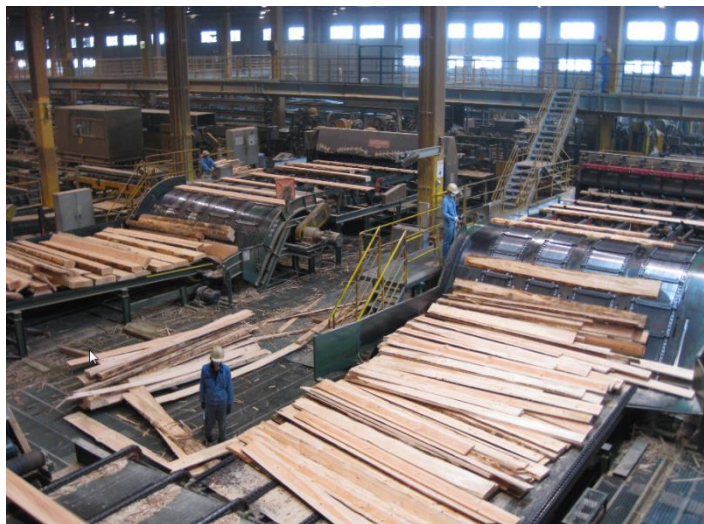


〔蒸気乾燥釜〕

用して乾燥しています。乾燥期間は1週間から10日で、含水率60～90%の材を20%までにします。

私たち国有林を管理する立場の職員も広い意味で情報の収集に努めながら、「木材産業の活性化」に向け取り組んでいきたいと思っています。

これからも川上から川下、また民有林・国有林の連携を意識しながら業務に取り組んで参ります。



〔製材工場〕



〔集積された集成材〕



〔木質バイオマス発電施設〕